

イノベーションに情熱を。  
ひとに思いやりを。



## 第一三共の現況と成長戦略

第一三共株式会社

取締役 専務執行役員 CFO

奥澤 宏幸

2023年3月2日（木）

# 将来の見通しに関する注意事項

本書において当社が開示する経営戦略・計画、業績予想、将来の予測や方針に関する情報、研究開発に関する情報等につきましては、全て将来を見込んだ見解です。これらの情報は、開示時点で当社が入手している情報に基づく一定の前提・仮定及び将来の予測等を基礎に当社が判断したものであり、これらには様々なリスク及び不確実性が内在しております。従いまして、実際の当社の業績は、当社の見解や開示内容から大きくかい離する可能性があることをご留意願います。また、本書において当初設定した目標は、全て実現することを保証しているものではありません。なお、実際の結果等にかかわらず、当社は本書の日付以降において、本書に記述された内容を随時更新する義務を負うものではなく、かかる方針も有していません。

本書において当社が開示する開発中の化合物は治験薬であり、開発中の適応症治療薬としてFDA等の規制当局によって承認されてはおりません。これらの化合物は、対象地域においてまだ有効性と安全性が確立されておらず、開発中の適応症で市販されることを保証するものではありません。

当社は、本書に記載された内容について合理的な注意を払うよう努めておりますが、記載された情報の内容の正確性、適切性、網羅性、実現可能性等について、当社は何ら保証するものではありません。また、本書に記載されている当社グループ以外の企業・団体その他に係る情報は、公開情報等を用いて作成ないし記載したものであり、かかる情報の正確性、適切性、網羅性、実現可能性等について当社は独自の検証を行っておらず、また、これを何ら保証するものではありません。

本書に記載の情報は、今後予告なく変更されることがあります。従いまして、本書又は本書に記載の情報の利用については、他の方法により入手した情報とも照合し、利用者の判断においてご利用ください。

本書は、米国又は日本国内外を問わず、いかなる証券についての取得申込みの勧誘又は販売の申込みではありません。

本書は投資家判断の参考となる情報の公開のみを目的としており、投資に関する最終決定はご自身の責任においてご判断ください。

当社は、本書に記載された情報の誤り等によって生じた損害について一切責任を負うものではありません。

## 1. 医薬品の分類と市場

## 2. 第一三共の現況

## 3. 第一三共の成長戦略 ～第5期中期経営計画～



## 医薬品

### 医療用医薬品

- ・ 医師の処方箋が必要

金額ベースの割合\*1  
約 9 : 1

### OTC医薬品等

- ・ 一般用医薬品や配置用家庭薬など
- ・ 薬局やドラッグストアなどで購入可能

### 新薬

(イノベティブ医薬品)

満たされていない医療ニーズの充足

- ・ 独占販売期間が認められている

金額ベースの割合\*2  
約 8 : 2

### 後発医薬品

(ジェネリック医薬品)

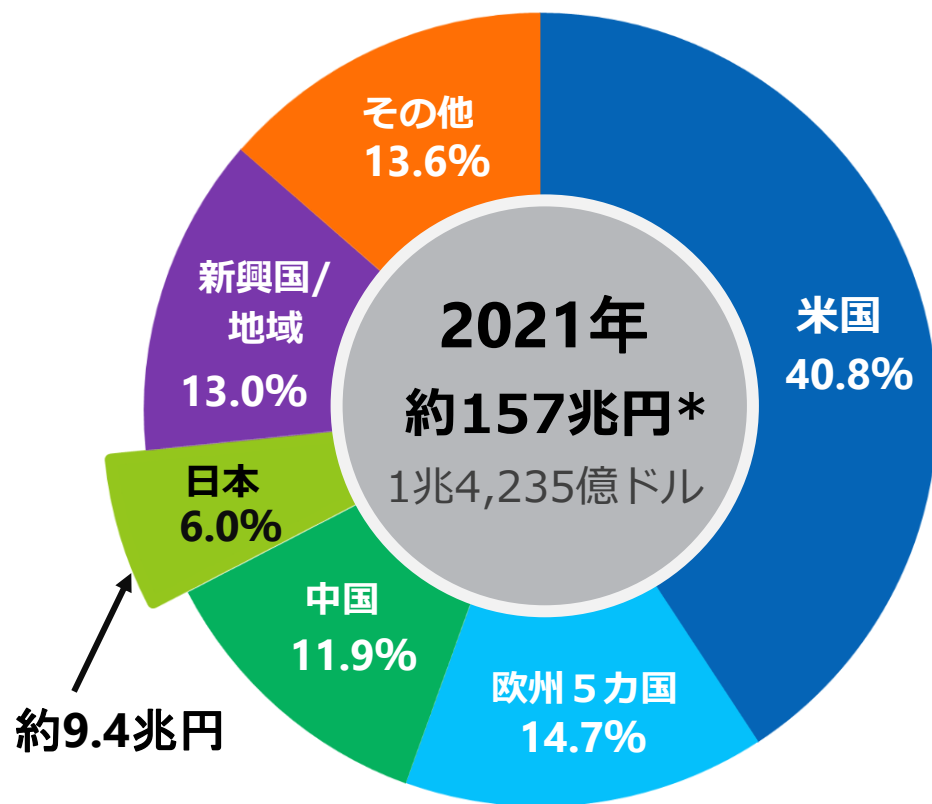
医療費の抑制

- ・ 独占販売期間が過ぎた後に発売

\* 1 : 参照 : 厚生労働省「薬事工業生産動態統計年報」第 1 表 医薬品生産金額の推移

\* 2 : 厚生労働省「令和4年度薬価基準改定の概要」をもとに当社にて算出

## 地域別シェア



## 年平均成長率予測 (2022-2026年)

グローバル	3~6%
米国	2.5~5.5%
欧州5カ国	3~6%
中国	2.5~5.5%
日本	-2~1%

\* 1ドル = 110円換算







欧州5カ国 : ドイツ、フランス、英国、イタリア、スペイン

新興国/地域 : ブラジル、インド、ロシア、アルゼンチン、バングラデシュ、チリ、コロンビア、エジプト、ハンガリー、インドネシア、メキシコ、パキスタン、フィリピン、ポーランド、ルーマニア、サウジアラビア、南アフリカ、台湾、トルコ、ウクライナ、ベトナム

出典 : IQVIA INSTITUTE, The Global Use of Medicines 2022 OUTLOOK TO 2026をもとに当社作成

著作権 : Copyright © 2023 IQVIA. 無断転載禁止

# 治療領域別での市場規模予測と成長率予測

順位	治療領域*1	2026年 市場規模予測*2		年平均成長率予測 (2022-2026年)
1	がん領域		42.8兆円	9~12%
2	自己免疫疾患領域		24.9兆円	6~9%
3	糖尿病領域		24.2兆円	6~9%
4	神経領域		21.1兆円	3~6%
5	抗凝固剤		12.1兆円	8~11%
6	心臓血管領域		12.1兆円	4~7%

\*1：弊社和訳。原文表記は順位1から順に、Oncology, immunology (treatment for autoimmune disorders), antidiabetics, neurology, anticoagulants, cardiovascular

\*2：1ドル=140円換算

## 1. 医薬品の分類と市場

## 2. 第一三共の現況

## 3. 第一三共の成長戦略 ～第5期中期経営計画～



- ◆ 証券コード 4568（東証プライム市場）  
単元株数：100株
- ◆ 設立 2005年9月  
～三共と第一製薬の経営統合により設立～
- ◆ 本社 東京都 中央区
- ◆ 事業内容 医薬品の研究開発、製造、販売等

## グローバル主力製品

### 抗悪性腫瘍剤 エンハーツ®



一般名：トラスツズマブ デルステカ

### 抗凝固剤 リクシアナ®



一般名：エドキサバン

## 日本での事業

### 新薬

ワクチン

ジェネリック医薬品

OTC医薬品



## 企業 理念

### パーパス（存在意義）

世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献する

### ミッション

革新的医薬品を継続的に創出し、  
多様な医療ニーズに応える医薬品を提供する

最大の強み

サイエンス&テクノロジー

## 長年引き継がれてきた強力な研究開発のDNA

1899 三共



初代社長  
高峰議吉博士  
効ガアスターゼ、アドレナリンの発見

1915 第一製薬



前身のアセミン商会を設立  
慶松勝左衛門博士  
サルバルタンを国産化 (アセミン)

高コレステロール血症治療剤  
1989 メバロチン®



一般名：プロバスタチン

高血圧症治療剤  
2002 オルメテック®



一般名：オルメサルタン

合成抗菌剤  
1993 クラビット®



一般名：レボフロキサシ

第一三共

抗血小板剤  
2009 エフィエント®



一般名：プロスグレ

抗凝固剤  
2011 リクシアナ®



一般名：イドキサバン

抗悪性腫瘍剤  
2020 エンハーツ®



一般名：トラスツズマブ デルクステカン

# 連結業績：今期予想

(単位：億円)

	2021年度実績	2022年度予想 (1月公表)	増減額
売上収益	10,449	12,500	+2,051
売上原価*	3,480	3,380	-100
販売費・一般管理費*	3,521	4,680	+1,159
研究開発費*	2,541	3,240	+699
コア営業利益*	906	1,200	+294
営業利益	730	1,300	+570
当期利益 (親会社帰属)	670	1,000	+330

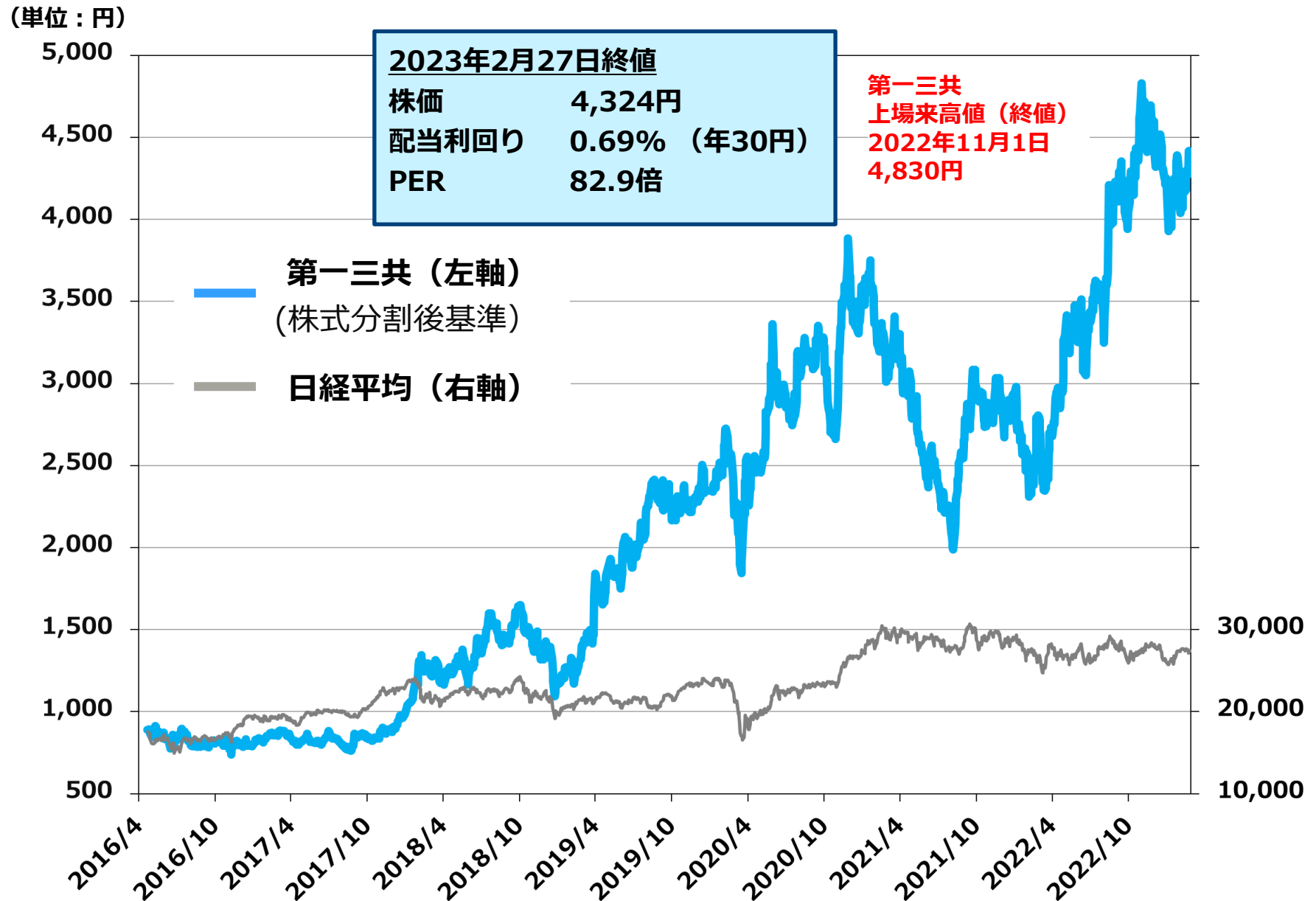
2022年度予想の為替レート的前提

USD/円 134.90円

EUR/円 140.45円

\*当社は、経常的な収益性を示す指標として、営業利益から一過性の収益・費用を除外したコア営業利益を開示しています。一過性の収益・費用には、固定資産売却損益、事業再編に伴う損益（開発品や上市製品の売却損益を除く）、有形固定資産、無形資産、のれんに係る減損損失、損害賠償や和解等に伴う損益の他、非経常的かつ多額の損益が含まれます。本表では売上原価、販売費・一般管理費、研究開発費について、一過性の収益・費用を除く実績を示しています。

# 株価の推移



1. 医薬品の分類と市場

2. 第一三共の現況

3. **第一三共の成長戦略**  
～第5期中期経営計画～



# 第一三共の価値創造プロセスとESG経営

## 社会からの要請

アンメット  
メディカル  
ニーズへの  
対応

高品質な  
医薬品の  
提供

医薬品  
アクセスの  
向上

ESGの  
取り組み  
その他の  
要請

## 投入資本

財務資本

製造資本

知的資本

人的資本

社会・関係  
資本

自然資本

## 企業 理念

パーパス  
(存在意義)

世界中の人々の  
健康で豊かな生活に貢献する

ミッション

革新的医薬品を継続的に創出し、  
多様な医療ニーズに応える医薬品を提供する

第一三共のバリューチェーン

最大の強み



サイエンス&  
テクノロジー

### 事業基盤に関わるマテリアリティ

- ◆ コンプライアンス経営の推進
- ◆ 企業理念の実現に向けたコーポレートガバナンス
- ◆ 競争力と優位性を生み出す多様な人材の活躍推進と育成
- ◆ 環境経営の推進

### マテリアリティ (持続的成長に向けて 取り組むべき重要課題)

#### 事業に関わる マテリアリティ

- 革新的な  
医薬品の創出
- 高品質な  
医薬品の安定供給
- 高品質な  
医療情報の提供
- 医療アクセスの  
拡大

## ステークホルダー や社会への 価値提供

患者さんと  
そのご家族・  
医療関係者

株主・  
投資家

社会・  
自然環境

従業員

価値創造の循環による持続的な価値創造

ESG経営のもと、2025年度目標がんに強みを持つ先進的  
グローバル創薬企業を達成し、2030年ビジョン実現に向けた  
成長ステージに移行

## 2030年ビジョン

サステナブルな社会の  
発展に貢献する  
先進的グローバル  
ヘルスケアカンパニー

2021-2025  
第5期中計

2025年度目標を  
達成し  
成長ステージへ

## 2025年度目標を達成し成長ステージへ

### 2025年度計数目標

- ◆ 売上収益：1兆6,000億円（がん領域：6,000億円以上）
- ◆ ROE：16%以上
- ◆ 研究開発費控除前 コア営業利益率：40%
- ◆ DOE\*：8%以上

### 3ADC最大化の実現

- ◆ アストラゼネカとの戦略的提携を通じたエンハーツ®、Dato-DXd最大化
- ◆ HER3-DXdの自社開発と最大化
- ◆ 製品ポテンシャルに合わせた効率的・段階的な要員・供給キャパシティ拡大

### 既存事業・製品の利益成長

- ◆ リクシアナ®利益最大化
- ◆ タリージェ®、Nilemdo®等の早期拡大
- ◆ 新薬を軸とした収益構造へのトランスフォーメーション
- ◆ アメリカン・リージェント、第一三共ヘルスケアの利益成長

### 更なる成長の柱の見極めと構築

- ◆ 3ADCに次ぐ成長ドライバーの見極め
- ◆ ポストDXd-ADCモダリティの選定

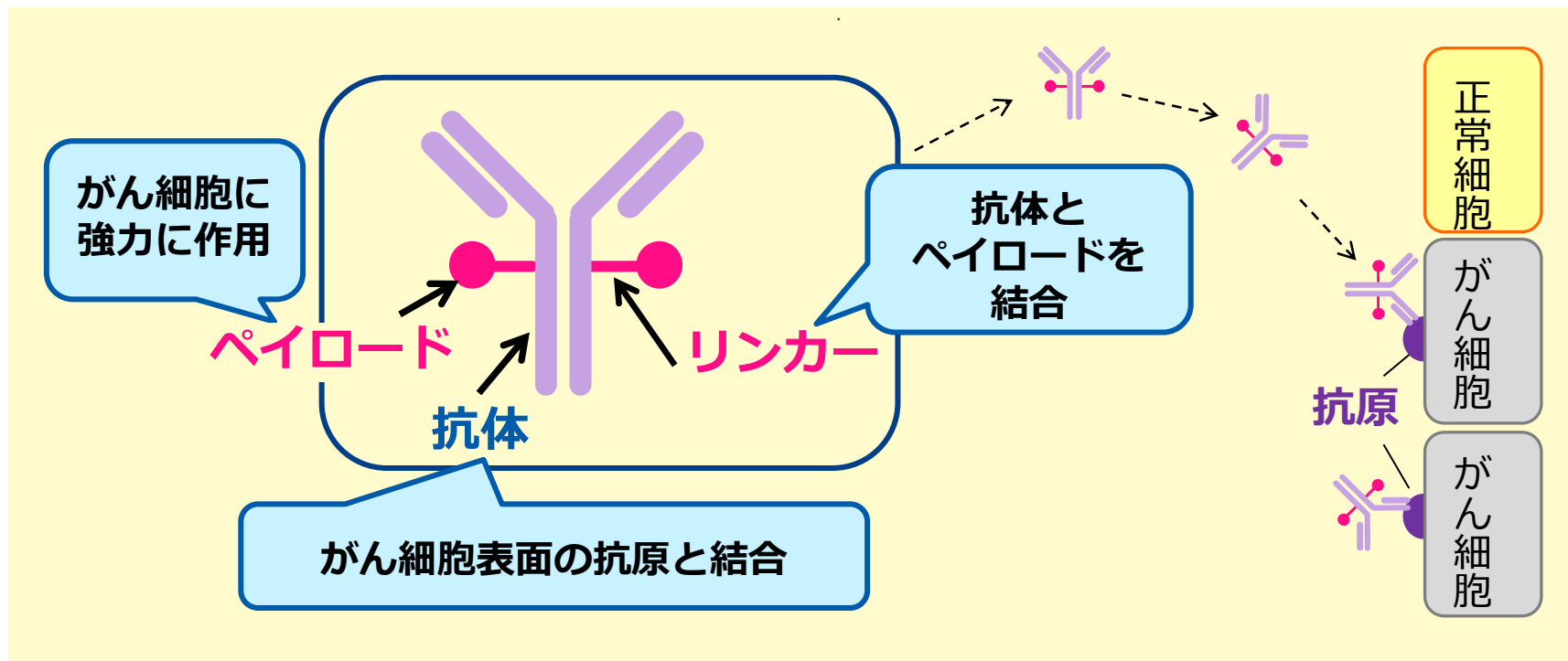
### ステークホルダーとの価値共創

- ◆ 患者さん：Patient Centric Mindsetによる患者さんへの貢献
- ◆ 株主：バランスのとれた成長投資と株主還元
- ◆ 社会：バリューチェーン全体の環境負荷の低減、およびパンデミックリスクへの対応
- ◆ 従業員：One DS Cultureの醸成に向けたCore Behaviorの実践

- ◆ DX推進によるデータ駆動型経営の実現と先進デジタル技術による全社の変革
- ◆ 新たなグローバルマネジメント体制による迅速な意思決定の実現

\* DOE：株主資本配当率 = 配当総額 ÷ 株主資本（親会社の所有者に帰属する持分）





## 当社独自のADC技術



ADC技術の解説動画をコーポレートウェブサイトで配信  
<https://www.daiichisankyo.co.jp/investors/individual/cancer/>

■ HER2抗原を標的とするADC（抗HER2 ADC）



■ 一般名：トラスツズマブ デルクステカン

■ アストラゼネカとの戦略的提携（2019年3月締結）

提携内容：エンハーツ®に関する共同開発・共同販促



対象地域：グローバル



受領対価：最大で総額 7,590億円

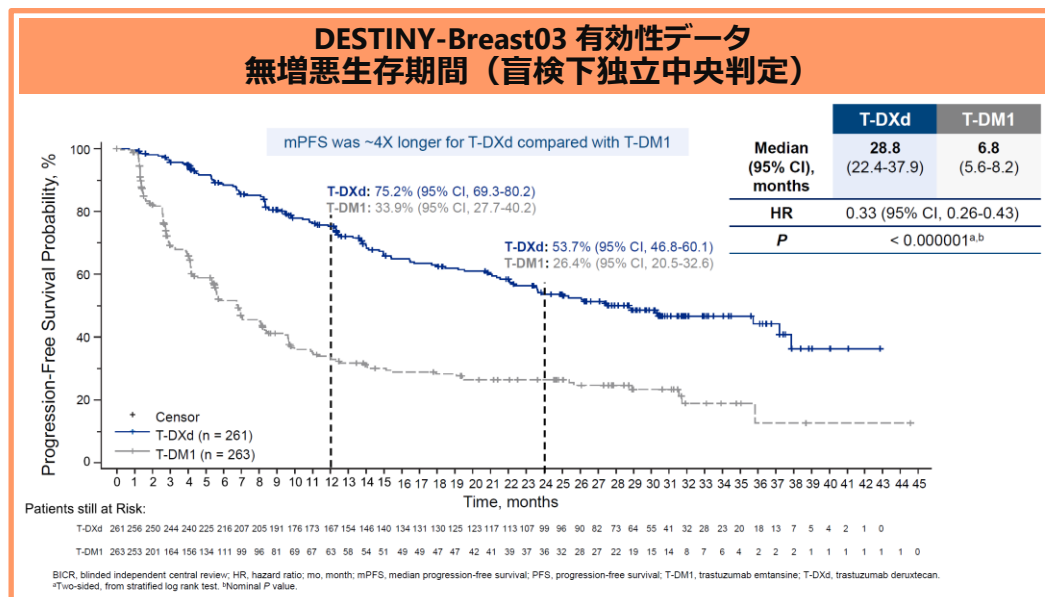
- 契約時一時金 1,485億円
- 開発マイルストーン等 最大4,180億円
- 販売マイルストーン 最大1,925億円

(1ドル=110円換算、契約締結時の為替レート水準)

■ 2020年1月 米国で発売

- ◆ HER2陽性乳がん 2次治療の適応取得
- ◆ 乳がん治療の変革

## 従来の標準治療薬 T-DM1と直接比較するフェーズ3試験（DESTINY-Breast03試験）で前例のない無増悪生存期間（PFS）\*の改善



2022年12月  
サンアントニオ乳がんシンポジウム発表データ

- ✓ エンハーツ®の病勢進行もしくは死亡のリスクはT-DM1と比較して67%減少（PFSのハザード比0.33）
- ✓ PFSの中央値はT-DM1の6.8ヶ月（95%信頼区間 5.6-8.2ヶ月）に対し、エンハーツ®では28.8ヶ月（22.4-37.9ヶ月）

## 米国（2022年5月）、欧州（同年7月）、日本（同年11月）で承認取得、販促開始 中国で承認取得（2023年2月）

\* 無増悪生存期間（PFS）：Progression Free Survival。治療中及び治療後に病勢進行せず安定した状態の期間

- ◆ **HER2低発現 乳がん（化学療法既治療）の適応取得**
- ◆ **従来はターゲットにできなかった新たな治療セグメントを開拓**

HER2低発現 乳がん患者は、乳がん全体の約半数を占め、  
HER2陽性乳がん患者の約2倍



承認申請を目指して実施したフェーズ3試験（DESTINY-Breast04試験）  
において主要評価項目および重要な副次評価項目をすべて達成

主要評価項目：ホルモン受容体陽性のHER2低発現乳がんにおける無増悪生存期間（PFS）

- ✓ エンハーツ®の病勢進行もしくは死亡のリスクは化学療法と比較して49%減少
- ✓ PFSの中央値は化学療法の5.4ヶ月（95%信頼区間 4.4-7.1ヶ月）に対し、10.1ヶ月（9.5-11.5ヶ月）  
米国臨床腫瘍学会（ASCO2022）での発表データ

米国（2022年8月）、欧州（2023年1月）で承認取得、販促開始  
日本、中国で承認申請受理

# エンハーツ®と当社ADC技術に対する反響と外部評価

■ 米国臨床腫瘍学会（ASCO 2022）で発表された**DESTINY-Breast04試験**の解析結果に対して、**エンハーツ®**が「**乳がんの治療体系を大きく変革する**」として学会参加者が高く評価



■ エンハーツ®の優れた薬効と当社独自のADC技術が高く評価され、**第6回バイオインダストリー大賞**と**第1回ファーマインテリジェンス・アワード・ジャパン**の**Pharma Company of the Year**を受賞



バイオインダストリー協会が、バイオサイエンス、バイオテクノロジーおよびバイオインダストリーの分野の発展に強いインパクトが期待される業績を表彰する賞

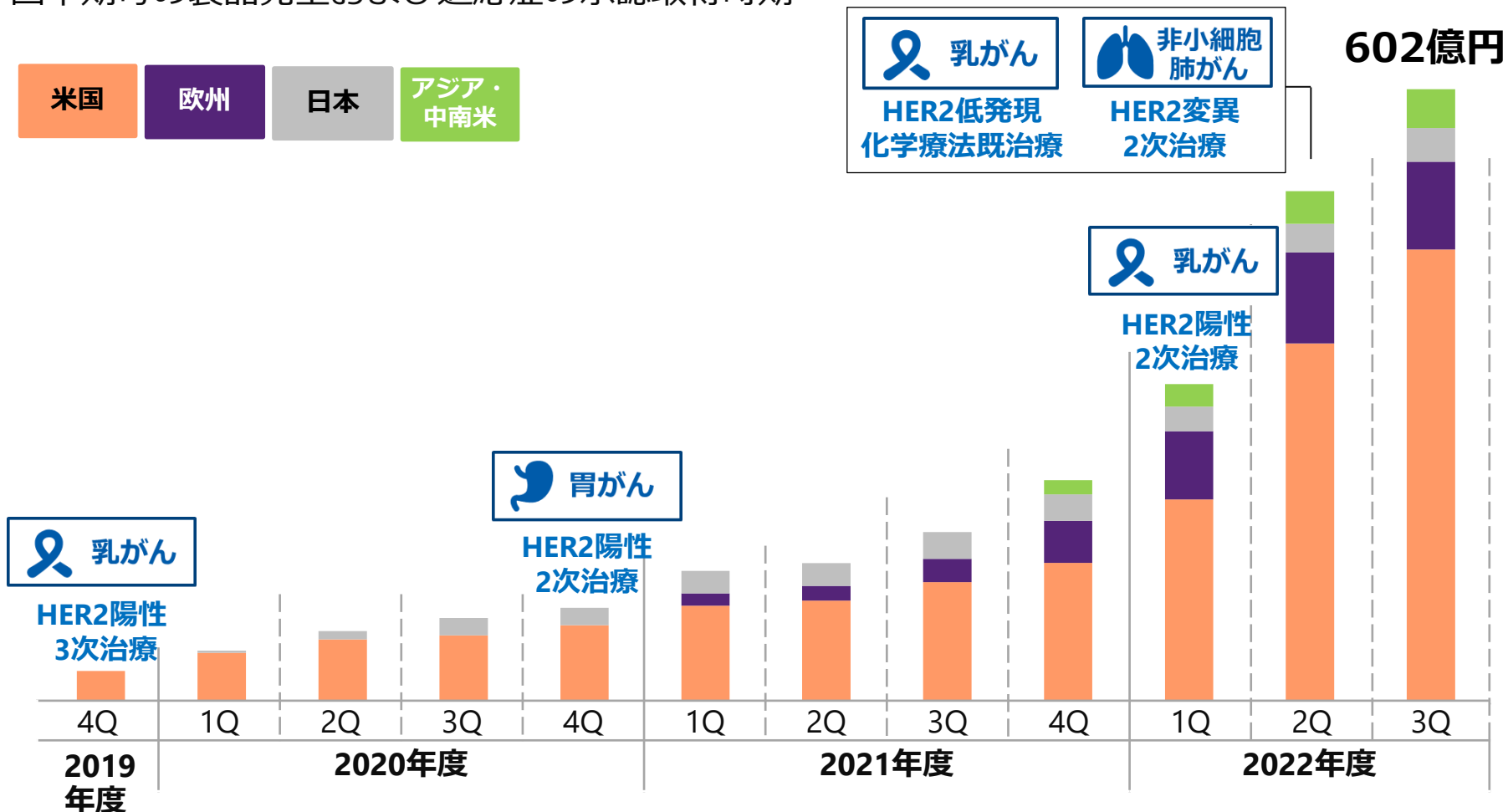


英国で17年間続き、世界的に知られるScrip Awardsの日本版。Pharma Company of the Yearはその中で、1年間に最も注目を集めた企業に贈られる賞

# エンハーツ®：発売以来の売上推移

## 着実な市場浸透と新たな適応症の追加により売上が順調に拡大

四半期毎の製品売上および適応症の承認取得時期\*

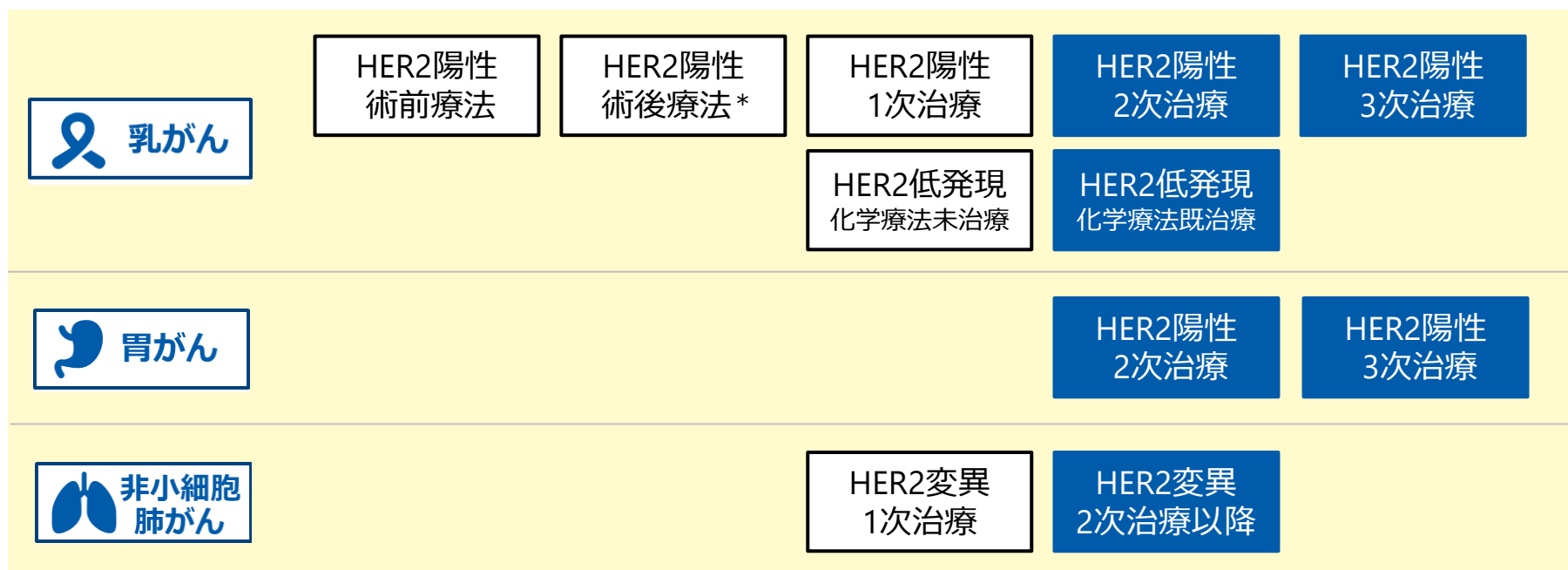


\* 適応症の承認取得時期：米国における承認取得時期

# エンハーツ®：製品価値最大化に向けた開発状況

- ◆ 承認取得済の3つのがん種について、より早期の治療段階での適応取得を目指し開発中
- ◆ 大腸がんなど他のがん種での適応取得を目指す臨床試験も実施中

承認取得済の適応
  承認申請用の臨床試験を実施中の適応



\* 術前療法後に浸潤性残存病変を有するHER2陽性乳がん患者を対象とする術後療法

(2023年1月現在)

■ エンハーツ®と同じADC技術を用いた  
TROP2抗原を標的とするADC（抗TROP2 ADC）



■ 一般名：ダトポタマブ デルクステカン

■ アストラゼネカとの戦略的提携（2020年7月締結）

**提携内容**：Dato-DXdに関する共同開発・共同販促



**対象地域**：グローバル



**受領対価**：最大で総額 6,600億円



- 契約時一時金 1,100億円
- 開発マイルストーン 最大1,100億円
- 販売マイルストーン 最大4,400億円

(1ドル=110円換算、契約締結時の為替レート水準)



## ◆ 複数の承認申請用の臨床試験を実施中

承認申請用の臨床試験を実施中の適応

	<b>Actionable 遺伝子変異 あり</b>	<input type="checkbox"/> 2次/3次治療	
	<b>Actionable 遺伝子変異 なし</b>		
	<b>HR*2 陽性 かつ HER2低発現 または陰性</b>	<input type="checkbox"/> 2次/3次治療	
	<b>HR*2 陰性 かつ HER2陰性 (TNBC*3)</b>	<input type="checkbox"/> 術後療法*4	<input type="checkbox"/> 1次治療

\*1 非扁平上皮 NSCLC

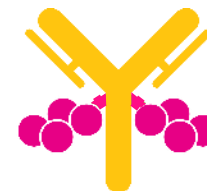
\*2 HR: ホルモン受容体

\*3 TNBC: トリプルネガティブ乳がん

\*4 術前療法後に浸潤性残存病変を有するTNBC患者を対象とする術後療法

(2023年1月現在)

■ エンハーツ®と同じADC技術を用いた  
HER3抗原を標的とするADC（抗HER3 ADC）



■ 一般名：パトリツマブ デルクステカン

■ 自社単独で開発

## 開発状況

- ◆ 非小細胞肺癌（EGFR遺伝子変異あり）を対象とした複数の承認申請用の臨床試験を実施中
- ◆ 乳がんでの臨床試験も実施中

承認申請用の臨床試験を実施中の適応



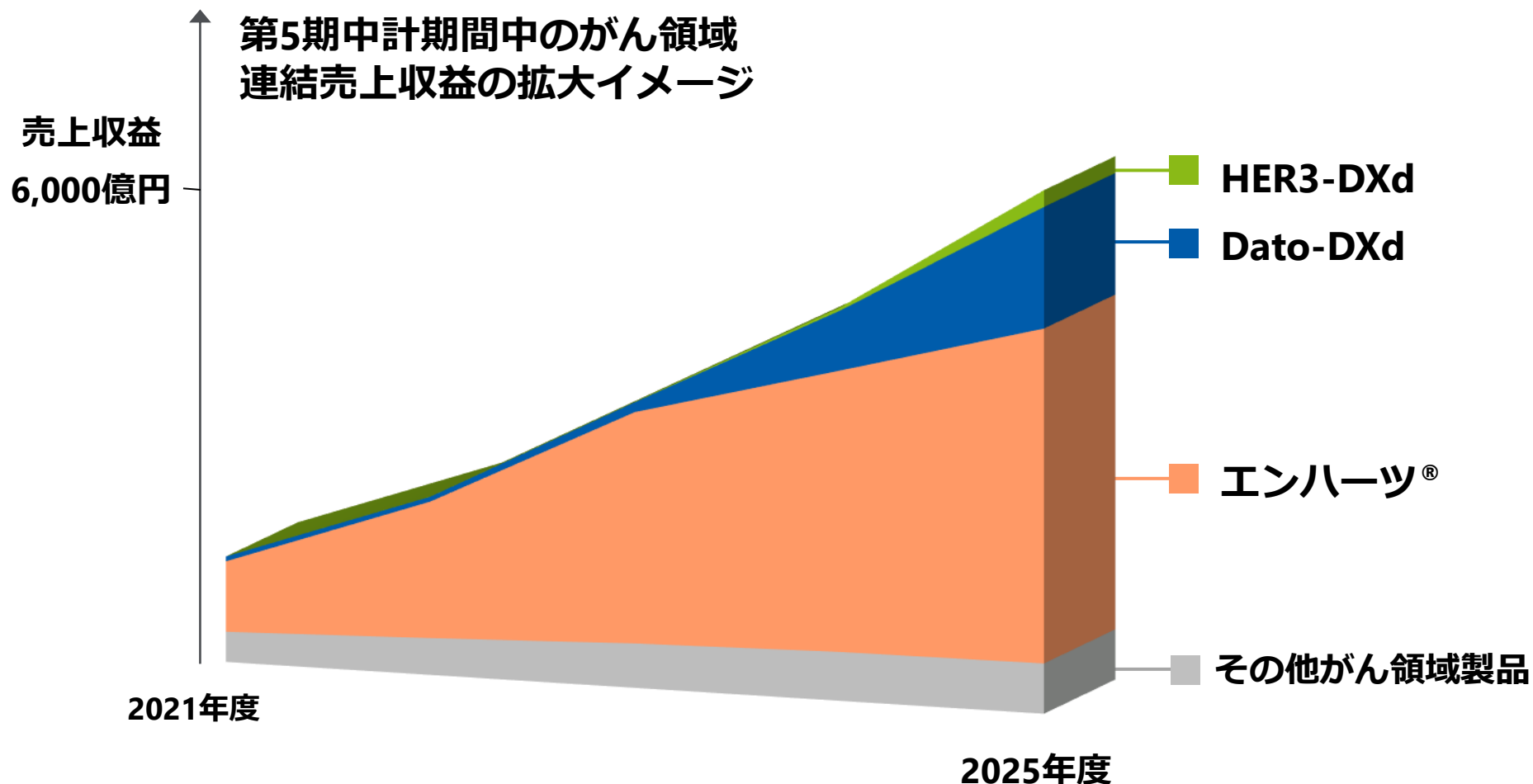
EGFR遺伝子  
変異あり

2次治療

3次治療

(2023年1月現在)

3ADCの最大化により、  
2025年度売上収益 6,000億円以上を目指す



## 2025年度目標を達成し成長ステージへ

### 2025年度計数目標

- ◆ 売上収益：1兆6,000億円（がん領域：6,000億円以上）
- ◆ ROE：16%以上
- ◆ 研究開発費控除前 コア営業利益率：40%
- ◆ DOE\*：8%以上

### 3ADC最大化の実現

- ◆ アストラゼネカとの戦略的提携を通じたエンハーツ®、Dato-DXd最大化
- ◆ HER3-DXdの自社開発と最大化
- ◆ 製品ポテンシャルに合わせた効率的・段階的な要員・供給キャパシティ拡大

### 既存事業・製品の利益成長

- ◆ リクシアナ®利益最大化
- ◆ タリージェ®, Nilemdo®等の早期拡大
- ◆ 新薬を軸とした収益構造へのトランスフォーメーション
- ◆ アメリカン・リージェント、第一三共ヘルスケアの利益成長

### 更なる成長の柱の見極めと構築

- ◆ 3ADCに次ぐ成長ドライバーの見極め
- ◆ ポストDXd-ADCモダリティの選定

### ステークホルダーとの価値共創

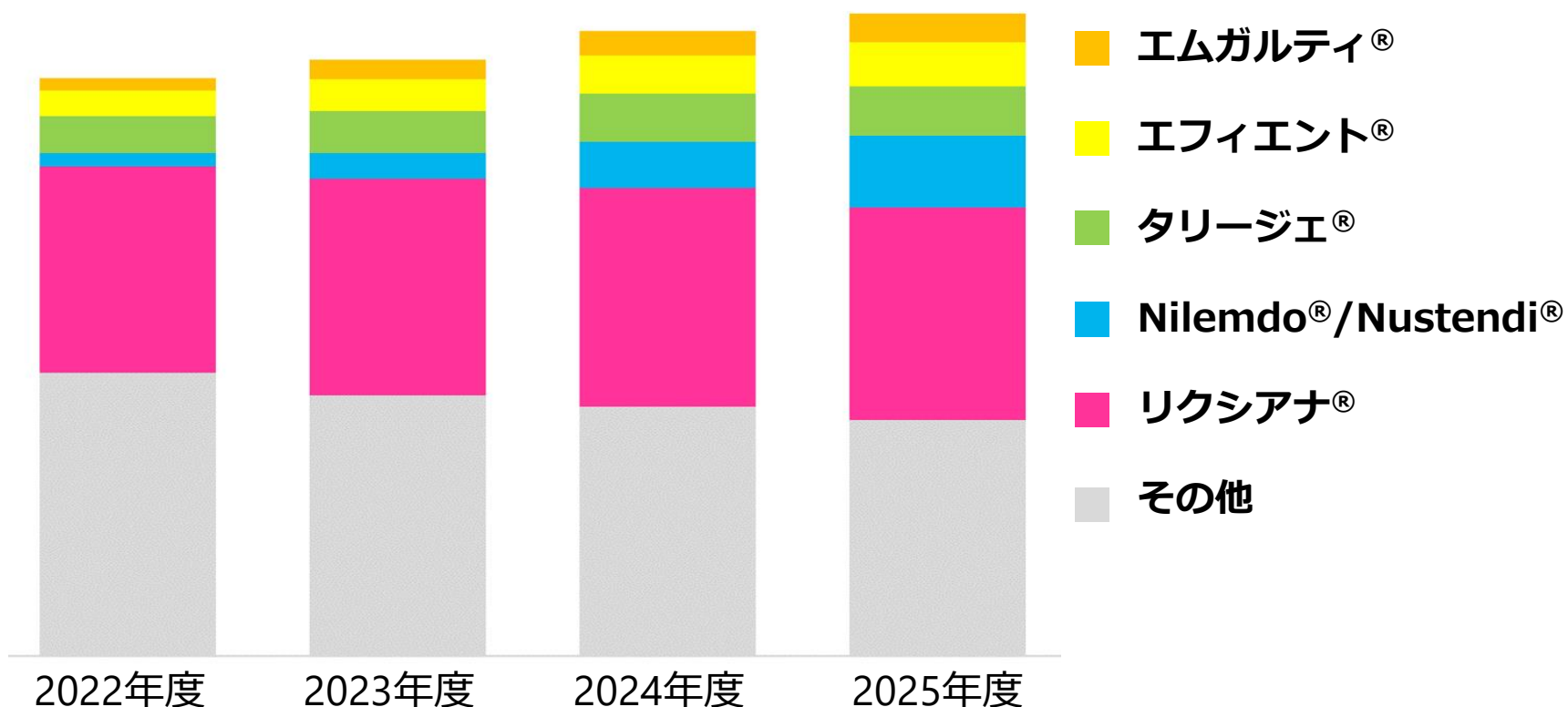
- ◆ 患者さん：Patient Centric Mindsetによる患者さんへの貢献
- ◆ 株主：バランスのとれた成長投資と株主還元
- ◆ 社会：バリューチェーン全体の環境負荷の低減、およびパンデミックリスクへの対応
- ◆ 従業員：One DS Cultureの醸成に向けたCore Behaviorの実践

- ◆ DX推進によるデータ駆動型経営の実現と先進デジタル技術による全社の変革
- ◆ 新たなグローバルマネジメント体制による迅速な意思決定の実現

\* DOE：株主資本配当率 = 配当総額 ÷ 株主資本（親会社の所有者に帰属する持分）

## がん以外の領域においても新薬事業を拡大

### 連結売上収益拡大イメージ



## 2025年度目標を達成し成長ステージへ

### 2025年度計数目標

- ◆ 売上収益：1兆6,000億円（がん領域：6,000億円以上）
- ◆ ROE：16%以上
- ◆ 研究開発費控除前 コア営業利益率：40%
- ◆ DOE\*：8%以上

### 3ADC最大化の実現

- ◆ アストラゼネカとの戦略的提携を通じたエンハーツ®、Dato-DXd最大化
- ◆ HER3-DXdの自社開発と最大化
- ◆ 製品ポテンシャルに合わせた効率的・段階的な要員・供給キャパシティ拡大

### 既存事業・製品の利益成長

- ◆ リクシアナ®利益最大化
- ◆ タリージェ®、Nilemdo®等の早期拡大
- ◆ 新薬を軸とした収益構造へのトランスフォーメーション
- ◆ アメリカン・リージェント、第一三共ヘルスケアの利益成長

### 更なる成長の柱の見極めと構築

- ◆ 3ADCに次ぐ成長ドライバーの見極め
- ◆ ポストDXd-ADCモダリティの選定

### ステークホルダーとの価値共創

- ◆ 患者さん：Patient Centric Mindsetによる患者さんへの貢献
- ◆ 株主：バランスのとれた成長投資と株主還元
- ◆ 社会：バリューチェーン全体の環境負荷の低減、およびパンデミックリスクへの対応
- ◆ 従業員：One DS Cultureの醸成に向けたCore Behaviorの実践

- ◆ DX推進によるデータ駆動型経営の実現と先進デジタル技術による全社の変革
- ◆ 新たなグローバルマネジメント体制による迅速な意思決定の実現

\* DOE：株主資本配当率 = 配当総額 ÷ 株主資本（親会社の所有者に帰属する持分）

# 3ADCに次ぐ成長ドライバーの見極め

臨床試験の進捗に伴い成長ドライバーとしてのポテンシャルが高まってきた  
**DS-7300**（抗B7-H3 ADC）と **DS-6000**（抗CDH6 ADC）を **Rising Stars** と位置付け、  
 多様ながん種での開発を加速

プロジェクト (標的抗原)	可能性のある 適応症	研究	前臨床	フェーズ 1	フェーズ 2	フェーズ 3	申請	上市
1 エンハーツ® (HER2)	乳がん、胃がん、 非小細胞肺癌ん、 大腸がんなど	[Progress bar from Research to Market]						
2 Dato-DXd (TROP2)	非小細胞肺癌ん、 乳がんなど	[Progress bar from Research to Phase 2]						
3 HER3-DXd (HER3)	非小細胞肺癌ん、 乳がん	[Progress bar from Research to Phase 2]						
4 DS-7300 (B7-H3)	食道扁平上皮がん、 前立腺がん、 小細胞肺癌んなど	[Progress bar from Research to Phase 2]						
5 DS-6000 (CDH6)	腎臓がん、 卵巣がん	[Progress bar from Research to Phase 1]						
6 DS-3939 (TA-MUC1)	固形がん	[Progress bar from Research to Phase 1]						
7 DS-XXXX (非開示)	非開示	[Progress bar from Research to Phase 1]						

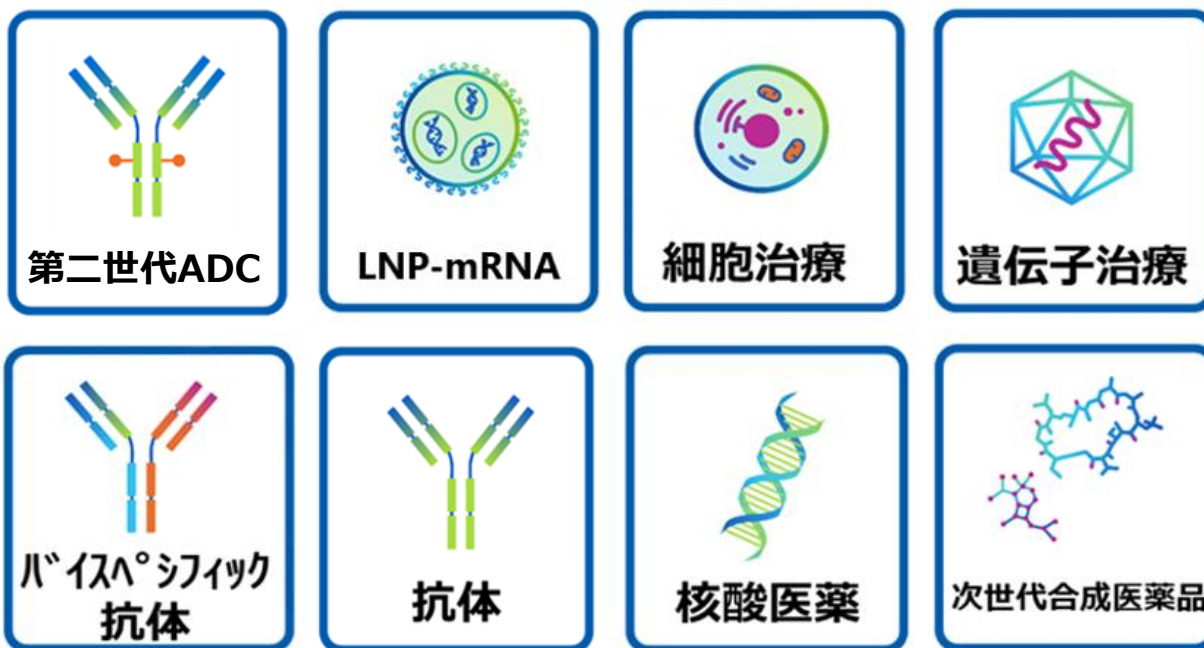
3ADC

Rising Stars

□ タイムラインは各プロジェクトで最も進んでいるステージを示している

(2023年1月現在)

- ◆ ポストDXd-ADCとなるモダリティを多様なモダリティの中から選定
- ◆ 技術確立に向けたデータ・ノウハウを蓄積中





## 2025年度目標を達成し成長ステージへ

### 2025年度計数目標

- ◆ 売上収益：1兆6,000億円（がん領域：6,000億円以上）
- ◆ ROE：16%以上
- ◆ 研究開発費控除前 コア営業利益率：40%
- ◆ DOE\*：8%以上

### 3ADC最大化の実現

- ◆ アストラゼネカとの戦略的提携を通じたエンハーツ®、Dato-DXd最大化
- ◆ HER3-DXdの自社開発と最大化
- ◆ 製品ポテンシャルに合わせた効率的・段階的な要員・供給キャパシティ拡大

### 既存事業・製品の利益成長

- ◆ リクシアナ®利益最大化
- ◆ タリージェ®, Nilemdo®等の早期拡大
- ◆ 新薬を軸とした収益構造へのトランスフォーメーション
- ◆ アメリカン・リージェント、第一三共ヘルスケアの利益成長

### 更なる成長の柱の見極めと構築

- ◆ 3ADCに次ぐ成長ドライバーの見極め
- ◆ ポストDXd-ADCモダリティの選定

### ステークホルダーとの価値共創

- ◆ 患者さん：Patient Centric Mindsetによる患者さんへの貢献
- ◆ 株主：バランスのとれた成長投資と株主還元
- ◆ 社会：バリューチェーン全体の環境負荷の低減、およびパンデミックリスクへの対応
- ◆ 従業員：One DS Cultureの醸成に向けたCore Behaviorの実践

- ◆ DX推進によるデータ駆動型経営の実現と先進デジタル技術による全社の変革
- ◆ 新たなグローバルマネジメント体制による迅速な意思決定の実現

\* DOE：株主資本配当率 = 配当総額 ÷ 株主資本（親会社の所有者に帰属する持分）

- ◆ COVID-19に対するmRNAワクチン DS-5670の開発\*1が進捗
- ◆ 国産mRNAワクチンとして技術確立を目指し、開発・生産体制を強化

## 主な開発状況

国内既承認mRNAワクチンに対する非劣性を検証するための追加免疫投与におけるDS-5670（起源株）のフェーズ 1/2/3試験\*2

- 2022年11月、有効性と安全性を確認し、**主要評価項目を達成**
- 2023年1月、**国内承認申請**  
冷蔵温度帯（2-8℃）での流通が可能なmRNAワクチンを目指す

変異株（BA.4-5）対応2価ワクチンの臨床試験を2023年度上半期に開始予定



\*1：DS-5670の研究開発は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の「ワクチン開発推進事業」及び厚生労働省の「ワクチン生産体制等緊急整備事業」の支援を受けて実施しています

\*2：初回免疫（2回接種）完了後、6ヶ月以上経過した健康成人及び高齢者約5,000名を対象とした試験

## 第5期中計期間中（2021～2025年度）の株主還元方針

### 資本効率の向上

- ◆ 3ADCの成長による収益拡大
  - ◆ 機動的な自己株式取得
- 2025年度目標：ROE 16%以上

### 株主還元のさらなる充実

- ◆ 配当1株当たり27円の維持に加え、利益成長に応じた増配
- ◆ 機動的な自己株式取得

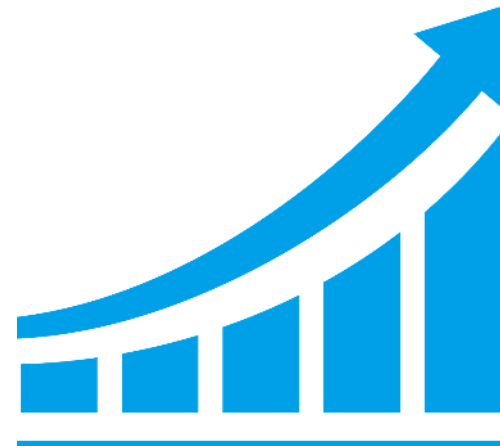
- ◆ 株主資本を基準とするDOEの採用による安定的な株主還元
  - ◆ 株主資本コストを上回るDOE
- 2025年度目標：DOE 8%以上

### 株主価値の最大化

## 2022年度 年間配当予想

エンハーツ®の想定以上の売上拡大を受け、2022年度の**1株当たり年間配当予想を前年度に比べ3円増配の30円**に修正（中間配当15円、期末配当15円）

- **売上収益**  
1兆 6,000億円（がん領域：6,000億円以上）
- **研究開発費控除前コア営業利益率**  
40%
- **ROE**  
16%以上
- **DOE\***  
8%以上



\* DOE：株主資本配当率 = 配当総額 ÷ 株主資本（親会社の所有者に帰属する持分）  
為替レート的前提：1 USD=105円、1 EUR=120円



**第一三共グループは世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献してまいります**



本資料に関するお問い合わせ先

**第一三共株式会社**  
**コーポレートコミュニケーション部**

TEL: 03-6225-1125 (株式市場関係者の皆様)  
03-6225-1126 (報道関係者の皆様)

Email: [DaiichiSankyoIR@daiichisankyo.co.jp](mailto:DaiichiSankyoIR@daiichisankyo.co.jp)